

～ 1年生 ～

科目をクリックするとシラバスが表示されます

【普通科目】

国語

[言語文化](#)

[国語基礎Ⅰ](#)

[国語基礎Ⅱ](#)

外国語

[英語基礎Ⅰ](#)

[英語基礎Ⅱ](#)

地歴公民

[地理総合](#)

総合的な探究の時間

[キャリアプラン](#)

数学

[数学基礎Ⅰ](#)

[数学基礎Ⅱ](#)

【専門科目】

商業

[ビジネス基礎](#)

[簿記](#)

[情報処理](#)

理科

[生物基礎](#)

保健体育

[体育](#)

[保健](#)

【学校設定科目】

[日本語Ⅰ](#)

芸術

[音楽](#)

[美術](#)

[書道](#)

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2
教科書（出版社）	言語文化（大修館書店）				
副教材（出版社）	アシスト常用漢字 改訂版（数研出版）、LT現代文1（浜島書店）				
授業の概要	近代以降の様々な文章や古典作品に触れることで、「読解力」・「思考力」・「表現力」を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。				
授業の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	小説 「羅生門」 古文 歴史的仮名遣い 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩や象徴に着目しながら作品を読み、表現の仕方やその効果について理解する。 ・ 幻想的な作品世界を味わいながら本文を読むことをとおして、読書の意義と効用を理解する。 ・ 古文に親しみをもち、その特徴に慣れるとともに、古典文法の基礎知識を身に付ける。 ・ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。
	2 学 期	小説 「城の崎にて」 古文 「芥川」(伊勢物語) 「筒井筒」(伊勢物語) 短歌 十五首	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説の主題を読み取る言語感覚を磨き、新しい発見を自覚する。 ・ 作品に興味をもち、主人公の心情の変化を、動物や自然との関わりから理解する。 ・ 歌物語について理解し、話の展開や登場人物の心情について把握する。 ・ 作者のものの見方、考え方を読み取ることで、自身の生活を振り返り、観察眼を養う。 ・ 短歌に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。
	3 学 期	俳句 十二句 漢文 訓読のきまり 「論語・孟子」 「蛇足」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。 ・ 漢文学習への興味をもつとともに、漢文訓読のきまりを理解する。 ・ 作品に興味をもち、現代に生きている言葉や考え方について理解する。 ・ 作品に興味をもち、場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉をとおして積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。
評価 方 法	定期考査 小テスト 課題	定期考査 ワークシート・ノート 課題	学習態度・活動観察 課題・ノート・ワークシート 発表・パフォーマンス課題



教科	国語	科目	国語基礎 I	単位数	2
教科書 (出版社)	論読現代文 1 (浜島書店)、プリント				
副教材 (出版社)	国語常識ベーシック (数研出版)				
授業の概要	漢字・言葉の学習や評論の読解をとおして、言語感覚を磨き、思考力・判断力・表現力を養い、対話的、協働的な学習をとおして、相互伝達・相互理解を進めていく力を高める。				
授業の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、評論の読解や言語活動をとおして国語を的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成するために必要な基礎を学び直す。				

年間学習計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	漢字・言葉・国語常識 「漢字の部首・筆順・画数」 「熟語の構成」 「漢字の読み」 「慣用句」 「原稿用紙の使い方」 読解のコツ 「接続詞について知ろう」 「指示語」 評論 『ココロの止まり木』 『悩み老いて最強たれ』	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の部首・筆順・画数や熟語の構成、漢字の読み、慣用句について理解する。 原稿用紙の使い方を理解し、原稿用紙を使って意見文や感想文を書く力を養う。 接続詞の種類や指示語について理解する。 接続詞やキーワード、指示語、具体例に着目して文章を読解する力を習得する。
2 学期	言葉・国語常識 「ことわざ・故事成語」 「比喩とオノマトペ」 「敬語 1・2」 「文学史」 読解のコツ 「対比」 「抽象と具体」 評論 『庭と日本人』 『自分探しと楽しさについて』	<ul style="list-style-type: none"> ことわざ・故事成語や比喩とオノマトペ、口語文法と敬語の種類を理解する。 文学史における主な人物や作品を理解し、自分が興味をもった人物や作品について調べたことを、まとめて発表する力を養う。 対比の構造、抽象と具体について理解する。 文章中から何と何の対比かをつかみ、対比から導かれた意見を読み取ったり、抽象から具体の流れに着目するとともに、具体例の前後に書かれた主張を読み取ったりする力を習得する。 	
3 学期	言葉 「敬語 3・4・5」 評論 『なぜ日本人はとりあえず謝るのか』	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の中の尊敬語と謙譲語を理解し、使えるようにする。 既習の接続詞・指示語・対比・抽象と具体すべてに着目して評論を読解する力を習得する。 	

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、適切に使うことができるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばすことができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 観察 話し合い 発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習態度 課題 ワークシート 活動 話し合い 発表活動 パフォーマンス課題



教科	国語	科目	国語基礎Ⅱ	単位数	2
----	----	----	-------	-----	---

教科書（出版社）	論読現代文1（浜島書店）補充問題、プリント
----------	-----------------------

副教材（出版社）	国語常識ベーシック（数研出版）
----------	-----------------

授業の概要	漢字・言葉の学習や評論の読解をとおして、言語感覚を磨き、思考力・判断力・表現力を向上させ、対話的、協働的な学習をとおして、相互伝達・相互理解を進めていく力を発展させる。
-------	--

授業の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、評論の読解や言語活動をとおして国語を的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成するために必要な基礎を学び直し、発展させる。
-------	---

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	漢字・言葉・国語常識 「漢字の部首・筆順・画数」 「熟語の構成」 「漢字の読み」 「慣用句」 「原稿用紙の使い方」 読解のコツ 「接続詞について知ろう」 「指示語」 評論 『ココロの止まり木』 『悩み老いて最強たれ』	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の部首・筆順・画数や熟語の構成、漢字の読み、慣用句について理解する。 原稿用紙の使い方を理解し、原稿用紙を使って意見文や感想文を書く力を養う。 接続詞の種類や指示語について理解する。 接続詞やキーワード、指示語、具体例に着目して文章を読解する力を習得する。
	2 学 期	言葉・国語常識 「ことわざ・故事成語」 「比喩とオノマトペ」 「敬語1・2」 「文学史」 読解のコツ 「対比」 「抽象と具体」 評論 『庭と日本人』 『自分探しと楽しさについて』	<ul style="list-style-type: none"> ことわざ・故事成語や比喩とオノマトペ、口語文法と敬語の種類を理解する。 文学史における主な人物や作品を理解し、自分が興味をもった人物や作品について調べたことを、まとめて発表する力を養う。 対比の構造、抽象と具体について理解する。 文章中から何と何の対比かをつかみ、対比から導かれた意見を読み取ったり、抽象から具体の流れに着目するとともに、具体例の前後に書かれた主張を読み取ったりする力を習得する。
	3 学 期	言葉 「敬語3・4・5」 評論 『なぜ日本人はとりあえず謝るのか』	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の中の尊敬語と謙譲語を理解し、使えるようにする。 既習の接続詞・指示語・対比・抽象と具体すべてに着目して評論を読解する力を習得する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、その特質を深く理解し、適切に使うことができるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、論理的に考える力や創造的に考える力を伸ばすことができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 観察 話し合い 発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習態度 課題 ワークシート 活動観 話し合い 発表活動 パフォーマンス課題



教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2
教科書 (出版社)	地理総合 (東京書籍)				
副教材 (出版社)	地理総合ワークノート (東京書籍)				
授業の概要	現代社会について、地図や地理情報システムなどを駆使しながら、多様な生活文化と地理的環境の関係、地球的課題と国際協力、持続可能な地域づくりという多様な角度から理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。				
授業の目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、主体的に考察し判断する能力と態度を育てる。				

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	第1編 地図や地理情報システムからとらえる現代社会 1 私たちが暮らす世界 2 地図や地理情報システムの役割 3 資料から読み取る現代社会 第2編 人々の生活文化と多様な地理的環境 1 生活文化の多様性と国際理解 2 生活文化と自然環境 地形 3 生活文化と自然環境 気候 4 生活文化と産業	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 地図や地理情報システムの役割を活用して、位置や分布、場所、国家間の結びつきなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性を持つことや、自他の文化を尊重し国際理解をはかることの重要性を理解している。
	第3編 さまざまな地球的課題と国際協力 1 地球的環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口問題 4 食糧問題 5 居住・都市問題 6 民族問題 7 持続可能な社会の実現をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地で見られる地球的環境問題を基に、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性について理解し、持続可能な社会づくりなどに着目して主題を設定し、現状や要因、解決の方向性を考察している。
	第4編 持続可能な地域づくりと私たち 1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> 我が国をはじめ世界や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや地域性を踏まえた対応の重要性を理解している。 持続可能な地域づくりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査 ワークシート 授業中の観察	定期考査 ワークシート 授業中の観察	ワークシート 学期ごとの振り返りシート



教科	数学	科目	数学基礎 I	単位数	2
教科書 (出版社)	自作プリント				
副教材 (出版社)	自作プリント				
授業の概要	中学校で学習した「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の内容を扱い、高校数学を学ぶための基礎の部分を復習する。				
授業の目標	中学校で既習の内容である数と式・図形・関数・データの活用についての内容を復習することで、数量や図形などについての基礎的な原理・法則などを理解させ、解決の過程や結果を考察する力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				

年間 学習 計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	数と式 四則計算 指数 約数・素因数分解 文字式の計算 一次方程式 連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> 式の特徴をとらえ、適切な方法を用いて簡単な有理数までの四則演算をすることができる。 約数や素数の性質を再確認し、適切な方法で約数を見つけたり、素因数分解をすることができる。 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付け、整式の四則演算の方法を考察し、表現することができる。
	2 学期	数と式 式の展開 因数分解 平方根 二次方程式 関数 比例 一次関数 $y = ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いることの必要性和意味を再確認し、簡単な一次式の四則演算をすることができる。 因数分解や平方根の考えを利用して、二次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 事象の中に関数として捉えられるものがあることを再確認し、関数について理解することができる。 比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴について考察し、表現することができる。
	3 学期	図形 基本的な平面図形 図形の合同 図形の相似 円周角の定理 三平方の定理 データの活用 データの分布	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質、平面図形の合同や相似の意味について再確認し、考察することができる。 三平方の定理の意味を再確認し、適切に活用することができる。 円周角と中心角の関係を利用して問題を考察し、表現することができる。 ヒストグラムや代表値、四分位範囲の必要性和意味を再確認し、データについて考察することができる。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> 式の特徴をとらえ、適切な方法で計算することができる。 文字を用いることの必要性和意味を再確認し、簡単な一次式の四則演算をすることができる。 事象の中に関数として捉えられるものがあることを再確認し、関数について理解することができる。 平行線や角の性質、平面図形の合同や相似の意味について再確認し、考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付け、整式の四則演算の方法を考察し、表現することができる。 因数分解や平方根の考えを利用して、二次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴について考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し、問題解決に数学を活用しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善したりしようとしている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト ワークシート 観察 課題プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 観察 授業プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 課題プリント レポート課題 振り返りシート



教科	数学	科目	数学基礎Ⅱ	単位数	2
教科書（出版社）	自作プリント				
副教材（出版社）	自作プリント				
授業の概要	中学校で学習した「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の内容を扱い、高校数学を学ぶための基礎の部分を復習する。				
授業の目標	中学校で既習である数と式・図形・関数・データの活用についての内容を復習することで数量や図形などについての基礎的な原理・法則などを理解させ、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるとともに、それらを活用する態度を育てる。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学 期	数と式 四則計算 指数 約数・素因数分解 文字式の計算 一次方程式 連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> 式の特徴をとらえ、適切な方法を用いて簡単な有理数までの四則演算をすることができる。 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察することができる。 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付け、整式の四則演算の方法を考察し、表現することができる。
	2 学 期	数と式 式の展開 因数分解 平方根 二次方程式 関数 比例 一次関数 $y = ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> 式の特徴をとらえ、複雑な式を簡単な式に帰着させ、二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に活用することができる。 因数分解や平方根の考えを利用して、二次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 事象の中に関数として捉えられるものがあることを再確認し、いろいろな事象の中に関数関係があることを理解することができる。 比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴について考察し、表現することができる。
	3 学 期	図形 基本的な平面図形 図形の合同 図形の相似 円周角の定理 三平方の定理 データの活用 データの分布	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質、平面図形の合同や相似の意味について再確認し、考察することができる。 三平方の定理の意味を再確認し、適切に活用することができる。 円周角と中心角の関係を利用して問題を考察し、表現することができる。 ヒストグラムや代表値、四分位範囲の必要性と意味を再確認し、データについて考察することができる。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 式の特徴をとらえ、適切な方法で計算することができる。 文字を用いることの必要性和意味を再確認し、簡単な一次式の四則演算をすることができる。 事象の中に関数として捉えられるものがあることを再確認し、いろいろな事象の中に関数関係があることを理解することができる。 三平方の定理の意味を再確認し、適切に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察することができる。 因数分解や平方根の考えを利用して、二次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴について考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し、問題解決に数学を活用しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善しようとしている。
	評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト ワークシート 観察 課題プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 観察 授業プリント



教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
----	----	----	------	-----	---

教科書 (出版社)	新編 生物基礎 (数研出版)
-----------	----------------

副教材 (出版社)	新編 生物基礎 サポートノート (数研出版)
-----------	------------------------

授業の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について科学的な視点で探究していく。
-------	---

授業の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。
-------	---

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1 学期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性と多様性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生物にも共通性があることやその理由を理解する。 生命活動にはエネルギーが必要であり、エネルギーの受け渡しには ATP が使われていることを理解する。 呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。 代謝は酵素のはたらきにより進行することを理解する。 DNA の構造から塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 体細胞分裂の過程で DNA が複製、分配されるしくみを理解する。 DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 体細胞で遺伝子がどのように発現しているか理解する。
	2 学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。 血糖濃度など体内環境の調節のしくみを理解する。 私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 免疫と、病気や治療法との関係について理解する。 いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。
	3 学期	第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地には多様なバイオームが成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。 生態系の中で、多様な生物がどのように関係しているかを理解する。 生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 課題 授業ノート ワークシート 観察



教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
教科書（出版社）	現代高等保健体育（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（大修館）、ステップアップ高校スポーツ2024（大修館）				
授業の概要	各学期に種目を選択し実技を行う。授業展開としては集合・整列・挨拶、準備運動、補強運動、主運動、整理運動、集合・整列・挨拶という流れとなる。体育理論も行う。				
授業の目標	主体的に運動に親しみ、仲間と協力して取り組むことにより、基礎体力の向上、協調性、ルールを遵守することの大切さを身に付ける。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	<ul style="list-style-type: none"> ○集団行動 ○体づくり運動 ○ラジオ体操 ○選択種目Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・器械運動 ・ダンス から1種目を選択 ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> 1 単元 スポーツの発祥と発展 1 スポーツの始まりと変遷 2 文化としてのスポーツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・素早く正確に指示通りに行動することができる。 ・自分や仲間の体と心の変化に気付くことができる。 ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・スポーツがどのように始まり、世界中に広まったのかを説明できる。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> ○選択種目Ⅱ・Ⅲ <ul style="list-style-type: none"> ・柔道・ソフトボール ・ハンドボール ・サッカー ・バレーボール ・バドミントン から前・後半で各1種目の計2種目を選択 ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> 3 オリンピックとパラリンピックの意義 4 スポーツが経済に及ぼす効果 5 スポーツの高潔さとドーピング 6 スポーツと環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・オリンピックとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。 ・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているか、また、スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる。
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> ○選択種目Ⅳ <ul style="list-style-type: none"> ・卓球 ・硬式テニス ・バスケットボール から1種目を選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる。 ・スポーツにおける環境問題やスポーツは環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性や技能の要点を知っている。 ・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。 ・運動の特性に応じた技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の要点を意識した練習ができる。 ・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・練習場や用具などの安全を確かめようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト



教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版）				
授業の概要	教科書の内容を中心に講義を展開していく。教科書読みや質疑応答、ペアディスカッションなどをおしながら知識の理解を深めていく。ノートを使いながらまとめを行う。				
授業の目標	社会情勢の急速な変化に対応し、生涯を通じて重要な土台となる健康について、これから生きていく社会の中で考えていける力を身に付ける。				

年 間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学期	1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 健康の考え方と成り立ち 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> 国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴い健康の考え方が変化してきていることを理解する。健康は様々な要因の影響を受けることから、個人の適切な意思決定や行動選択、及び環境づくりが大切であると理解する。 がんの種類や原因、一次予防と二次予防、治療法や緩和ケア、検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。 健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事・運動・休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があると理解する。
	2 学期	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の要因となる喫煙、飲酒、薬物乱用の防止は、個人や社会環境への対策が必要であると理解する。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられることを理解し、その予防には個人的及び社会的な対策が必要であると理解する。 精神疾患の例をあげ、発病の要因と主な症状や現代社会における精神保健の課題、精神疾患を予防する方法、早期発見のために必要なことについて説明できる。精神疾患の治療や適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点、予防とその対策について個人と社会に分けて説明できる。 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。
	3 学期	20 事故の現状と発生要因 21 安全な社会の形成 22 交通における安全 23 応急手当の意義とその基本 24 日常的な応急手当 25 心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故を防止するには、車両の特性を理解し、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などが関わることを理解する。 応急手当の意義について説明できる。心肺蘇生法などの応急手当について正しい手順を理解し、行動に移すことができるようになる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。学んだ知識を実生活に結び付けて活用することができる。また、どのように活用していくかを仲間と話し合いながら意見を深めることができる。	現代社会と健康、安全な社会生活について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。	現代社会と健康、安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。
評価 方法	観察、発表、ノート、ワークシート、ペーパーテスト		



教科	芸術	科目	音楽	単位数	2
教科書（出版社）	MOUSA1（教育芸術社）				
副教材（出版社）	なし				
授業の概要	歌唱・器楽・鑑賞の活動をととして、音や音楽に対する興味・関心をもたせる。				
授業の目標	音楽を愛好する心情を育むとともに、生活や社会の中の音楽文化と関わる資質・能力を育成する。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学期	<p>〈曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・校歌 ・小さな空 <p>〈現代の音楽の特徴を理解しよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを使用した発表形式のワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい歌唱表現の技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌うとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える。
	2 学期	<p>〈日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野ばら ・オーシャンゼリゼ ・オ・ソーレ・ミオ <p>〈表現を工夫して合唱やヴォイスアンサンブルをしよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言わない ・ぼくはぼく 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う。
	3 学期	<p>〈さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムマシンにおねがい <p>〈実技発表会〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	音楽の構造について理解を深め、音楽を表現するために必要な技能を身に付けている。	音楽を形作る要素から創造的な表現を工夫し、音楽の良さや美しさを味わうことができる。	音楽と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び学習活動に取り組もうとしている。
評価 方法	小テスト・課題等	実技テスト・課題等	学習態度・課題等



教科	芸術	科目	美術	単位数	2
教科書（出版社）	高校生の美術1（日本文教出版）				
副教材（出版社）					
授業の概要	絵画、デザイン表現、芸術鑑賞				
授業の目標	芸術活動をとおして、見方・考え方を働かせ、芸術や芸術文化と豊かに関わる能力を育成することを目指す。				
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1 学 期	〈絵画〉 ・風景彩色画 ・人物彩色画		<ul style="list-style-type: none"> 美術の特質について理解するとともに、対象を表現するための技能を身に付けるようにする。 創造的な表現を工夫したり、芸術や美術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 美術を愛好する心情を育むとともに完成を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 	
	2 学 期	〈絵画〉 ・一点透視図法を使って部屋を表現する 〈デザイン〉 ・グリーティングカード		<ul style="list-style-type: none"> 遠近法を理解し、一点透視図法による表現の技法を身に付けるようにする。 構図や配置を考え、構成力を養う。 造形展開の技法を研究し、習得する。 色や形を工夫し、美しさの創造性を高める。 	
	3 学 期	〈コラージュ〉 ・コラージュによる画面構成 〈立体造形〉 ・仮面のデザイン		<ul style="list-style-type: none"> 材料の選別配置を考え、美しい画面構成を作る技能を身に付けるようにする。 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりできるようにする。 創意工夫をし、芸術的な感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	技法を理解して制作に取り組んでいる。 道具の正しい使い方を理解している。		主題を生成し、形や色構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。		感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 作品提出 		<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 作品提出 		<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 作品提出



教科	芸術	科目	書道	単位数	2
----	----	----	----	-----	---

教科書（出版社）	書道 I（教育出版）
----------	------------

副教材（出版社）	
----------	--

授業の概要	○書道が好きになる	○「自分の書」に会う	○書の伝統文化を理解・継承する
-------	-----------	------------	-----------------

授業の目標	○書の知識・技能の向上	○思考力・判断力・表現力の向上	○学びに向かう力・人間性の向上
-------	-------------	-----------------	-----------------

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学習 計画	1 学期	漢字の書〈楷書〉 ◆唐時代の書 ・孔子廟堂碑 ・九成宮禮泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ◆北魏時代の書 ・牛橛造像記 ・鄭義下碑	①楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質・字形・構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統文化について理解する。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能・線質・字形や構成をいかした表現を身に付ける。 ②楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆・字形・全体の構成について構想し工夫をする。 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉える。 ③幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	2 学期	仮名の書 ・平仮名 ・変体仮名 漢字の書〈行書〉 ・蘭亭序 ・争座位文稿 ・蜀素帖 ・風信帖	①仮名の古筆の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質・字形・構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統文化、仮名の成立・書の伝統的な鑑賞方法や形態について理解する。 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能・線質・字形をいかした表現をする為の技能を身に付ける。 ②仮名の古筆の書体や書風に即した用筆・運筆・字形・全体の構成について構想し工夫をする。 仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉える。 ③行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質・字形・構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統文化について理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能・線質・字形や構成をいかした表現を身に付ける。 ②行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆・字形・全体の構成について構想し工夫をする。 行書の古典の価値とその根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉える。 ③幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	3 学期	漢字仮名交じりの書 ・創作する	①用具・用材の特徴と表現の効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 線質・字形・構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の成立について理解する。 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付ける。 ②漢字と仮名の調和した字形・文字の大きさ・全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を活かした表現や現代に活きる表現について構想し工夫する。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わって捉える。 ③幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	毎時間の課題である書体・書風と用筆・運筆の関わりについて理解している。また、その技能・線質・字形を活かした表現を身に付けている。	毎時間の提出物の書きぶりの変化から、それぞれの単元の課題を発見し、その解決に向けて考察し工夫している。	授業時の姿勢、提出物の枚数、1枚1枚の書きぶりの変化から課題に向けて解決しようとしている。
評価 方法	毎時間の提出物 授業時の姿勢と態度	毎時間の提出物 授業時の姿勢と態度	毎時間の提出物 授業時の姿勢と態度



教科	外国語（英語）	科目	英語基礎 I	単位数	2
教科書（出版社）	Watching Joyful（浜島書店）				
副教材（出版社）	英語の研究 Action（中部日本教育文化会） 改訂版 WORD-MEISTER 英単語・熟語 1700、Training Note①(第一学習社)				
授業の概要	題材となる英文を読みながら、その内容を理解するとともに、主な表現に焦点をあてて英語のコミュニケーション場面での表現を学習する。				
授業の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な能力を養う。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	Lesson 1 Lito's Leaf Cutouts Lesson 2 J.League's 30 th Anniversary Lesson 3 Restoring Shuri Castle Lesson 4 Canadian Maple Syrup	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の復習を兼ねてアルファベット、身の回りの生活に関する基本的な単語を学ぶ。 ・葉っぱ切り絵アーティストのリトさんについて書かれている文を読み、その概要を理解することができる。 ・サッカーのJリーグについての話を読み、そのスポーツの特徴についての理解を深める。 ・火災により焼失した首里城の復元について書かれた文章を読み、沖縄の取り組みを理解する。 ・カナダの名産物であるメープルシロップについて読み、カナダの文化や生活について知り、日本の生活について理解を深める。
	2学期	Lesson 5 What Is SPOGOMI? Lesson 6 HARAMI chan Lesson 7 Antarctic Research Lesson 8 High School Deer Dancing Club	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポGOMI」は日本発祥のスポーツで、ワールドカップでも開催され、自然保護についての理解を深め、自分の考えを簡潔に表現できる。 ・ストリートピアノの演奏についての読み、彼女の音楽に対する姿勢を理解する。 ・雪と氷について説明した文章を読み、日本の南極地域観測隊が活躍していることを理解する。 ・岩手県立花巻農業高校の獅子踊りの文を読み、高校独自の取り組みについて理解を深める。
	3学期	Lesson 9 Osagari Culture in Tanegashima Lesson 10 Shimaenaga "Snow Fairies"	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生が作ったアプリの文章を読み、そのアプリの機能を理解することができる。また自分たちで考えたアプリをグループや、ペアで説明することができる。 ・日本の野鳥「シマエナガ」について書かれた文章を読み、その動物について理解を深める。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	初歩的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて自分が知っている語彙や表現を活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や話し手や書き手の意図などを理解したり、自分が知っている語彙や表現を活用して表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	活動観察 ワークシート・振り返りシート 定期考査	活動観察 スピーチ・エッセイ 定期考査	活動観察 プレゼンテーション



教科	外国語（英語）	科目	英語基礎Ⅱ	単位数	2
教科書（出版社）	Watching Joyful（浜島書店）				
副教材（出版社）	英語の研究 It's OK（浜島書店） 改訂版 WORD-MEISTER 英単語・熟語 1700、Training Note①(第一学習社)				
授業の概要	題材となる英文を読みながら、その内容を理解するとともに、主な表現に焦点をあてて英語のコミュニケーション場面での表現を学習する。				
授業の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な能力を養う。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	Lesson 1 Lito's Leaf Cutouts Lesson 2 J.League's 30 th Anniversary Lesson 3 Restoring Shuri Castle Lesson 4 Canadian Maple Syrup	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の復習を兼ねてアルファベット、身の回りの生活に関する基本的な単語を学ぶ。 ・葉っぱ切り絵アーティストのリトさんについて書かれている文を読み、その概要を理解することができる。 ・サッカーのJリーグについての話を読み、そのスポーツの特徴についての理解を深める。 ・火災により焼失した首里城の復元について書かれた文章を読み、沖縄の取り組みを理解する。 ・カナダの名産物であるメープルシロップについて読み、カナダの文化や生活について知り、日本の生活について理解を深める。
	2学期	Lesson 5 What Is SPOGOMI? Lesson 6 HARAMI chan Lesson 7 Antarctic Research Lesson 8 High School Deer Dancing Club	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポGOMI」は日本発祥のスポーツで、ワールドカップでも開催され、自然保護についての理解を深め、自分の考えを簡潔に表現できる。 ・ストリートピアノの演奏についての読み、彼女の音楽に対する姿勢を理解する。 ・雪と氷について説明した文章を読み、日本の南極地域観測隊が活躍していることを理解する。 ・岩手県立花巻農業高校の獅子踊りの文を読み、高校独自の取り組みについて理解を深める。
	3学期	Lesson 9 Osagari Culture in Tanegashima Lesson 10 Shimaenaga "Snow Fairies"	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生が作ったアプリの文章を読み、そのアプリの機能を理解することができる。また自分たちで考えたアプリをグループや、ペアで説明することができる。 ・日本の野鳥「シマエナガ」について書かれた文章を読み、その動物について理解を深める。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	初歩的な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて自分が知っている語彙や表現を活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や話し手や書き手の意図などを理解したり、自分が知っている語彙や表現を活用して表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	活動観察 ワークシート・振り返りシート 定期考査	活動観察 スピーチ・エッセイ 定期考査	活動観察 プレゼンテーション



教科	商業	科目	ビジネス基礎	単位数	2
教科書 (出版社)	ビジネス基礎 (実教出版)				
副教材 (出版社)	ビジネス基礎 準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を身に付ける。				
授業の目標	(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
1 学期	(1) 商業の学習とビジネス ア 商業を学ぶ重要性と学び方 イ ビジネスの役割 ウ ビジネスの動向・課題 (2) ビジネスに対する心構え ウ 情報の入手と活用 (3) 経済と流通 ア 経済の基本理念 (4) 取引とビジネス計算 ア 売買取引と代金決済	<ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ目的は何か、商業をどのように学んだらよいかを学習する。 ・自分の将来の進路について考える。 ・経済の基本的な仕組みや考え方について学習する。 ・電卓の使用に慣れ、機能を使いこなすための学習をする。 ・ビジネス計算に関する基本的な知識を学習する。
2 学期	(2) ビジネスに対する心構え ア 信頼関係の構築 イ コミュニケーションの基礎 (3) 経済と流通 イ 流通の役割 ウ 流通を支える活動 (4) 取引とビジネス計算 イ ビジネス計算の方法 (5) 企業活動 ア 企業の形態と組織 イ マーケティングの重要性と流れ ウ 資金調達 エ 財務諸表の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに対する望ましい心構えやビジネスにおける基本的なマナーを身に付ける。 ・ビジネスの場面に応じたコミュニケーションの取り方やその意義を学習する。 ・生産から消費にいたる「流通」の意義について学習する。 ・メーカー・物流業者・金融機関・保険業者・情報通信業者・サービス業者の行っているビジネスについて学習する。 ・代金決済はどのようになされるのかを学習する。 ・売買契約や売買取引の流れなど、売買取引を行うために必要な知識を学習する。 ・企業の概要について学習する。 ・マーケティングの重要性と基本的な流れについて学習する。 ・株式の発行や金融機関からの借入れなど資金調達の方法とその特徴及び資金調達に伴う責任について学習する。 ・電卓の使用に慣れ、機能を使いこなすための学習をする。 ・ビジネス計算に関する基本的な知識を学習する。
3 学期	(5) 企業活動 オ 企業活動に対する税 カ 雇用 (6) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題 イ 身近な地域のビジネスの動向	<ul style="list-style-type: none"> ・企業にかかわる税の種類と概要について学習する。 ・雇用の形態について学習するとともに、雇用に関して企業が負う責任について学習する。 ・身近な地域のビジネスについて学習する。 ・身近な地域の抱えるビジネスに関する課題や地域の発展に及ぼす影響について学習をする。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	定期考査	定期考査 パフォーマンス課題	パフォーマンス課題



教科	商業	科目	簿記	単位数	4
教科書 (出版社)	新簿記 (実教出版)				
副教材 (出版社)	反復式 学習と検定 簿記問題集 全商3級 (実教出版)				
授業の概要	1年生の商業科目の柱です。2年生以降、どの学科に進む場合でも重要で基礎的・基本的な知識となります。				
授業の目標	(1) 企業の取引の記録・計算・整理等の会計帳簿に関する知識と技術について学習する。 (2) 簿記の基本的仕組みや記帳方法の他、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。				

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期	第1編 簿記の基礎 1章 簿記の基礎 2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 3章 収益・費用と損益計算書 4章 取引と勘定 5章 仕訳と転記 6章 仕訳帳と総勘定元帳 7章 試算表 8章 精算表 9章 決算 第2編 取引の記帳 (その1) 10章 現金・預金などの取引 11章 商品売買の取引 12章 掛け取引 13章 手形の取引 14章 その他の債権・債務の取引 15章 固定資産の取引	<ul style="list-style-type: none"> ・記帳の基礎となる簿記の基本的な仕組みを学ぶ。 ・簿記の意味、目的、歴史などの簿記の基本的内容を学ぶ。 ・資産、負債、資本の意味及び貸借対照表の作成とその技法について学ぶ。 ・収益、費用の意味及び損益計算書とその技法について学ぶ。 ・仕訳帳への記入及び総勘定元帳への転記について学ぶ。 ・試算表の意義とその作成方法について学ぶ。 ・基本的な取引の記帳方法について学ぶ。 ・分記法と3分法との違い及び3分法の記帳方法を学ぶ。 ・約束手形、為替手形、有価証券の仕組みとその取引の仕訳について学ぶ。
	2学期	16章 個人企業の資本の取引 17章 販売費と一般管理費、税金の取引 第3編 決算 (その1) 18章 決算整理 (その1) 19章 8桁精算表 20章 帳簿決算 第4編 会計帳簿と帳簿組織 21章 会計帳簿 22章 伝票の利用 23章 会計ソフトウェアの活用 第5編 24章 特殊な手形の取引 25章 有価証券の取引 26章 本支店会計	<ul style="list-style-type: none"> ・販売費および一般管理費の意味と記帳方法について学ぶ。 ・決算整理の意味とその必要性について学ぶ。 ・各帳簿の締め切り方法について学ぶ。 ・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールについて学ぶ。 ・5伝票による起票や集計、転記の方法について学ぶ。 ・企業が各地に支店を設けた場合の記帳方法について学ぶ。 ・本支店の財務諸表の合併について学ぶ。
	3学期	27章 最近の実務に広がる取引 第6編 決算 (その2) 28章 決算整理 (その2) 発展編 29章 株式会社の取引と財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社に関する基本的な取引の記帳について学ぶ。 ・株式会社の設立とその基本的な仕訳と記帳方法について学ぶ。 ・社債の意味とその記帳方法について学ぶ。

学習の評価

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて課題に対応する力を身に付けている。	企業会計に関する法規と規準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商業	科目	情報処理	単位数	4
教科書（出版社）	情報処理（実教出版）				
副教材（出版社）	全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版） 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解するとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				
授業の目標	(1) コンピュータの基本的なしくみやソフトウェアなど情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得する。 (2) 表計算ソフトウェアや文書処理ソフトウェアなど既成のソフトウェアや情報通信ネットワークなどを利用して、情報を収集・整理して分析・伝達するなど活用に必要な能力と態度を育てる。 (3) プレゼンテーションソフトを利用して、自己の考えを適切に相手に伝えるための知識と技術を習得する。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学習 計画	1 学期	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> 情報の意義や役割、社会の情報システムについて学ぶ。 情報モラルの基本的な考え方や態度について学ぶ。 企業における適切な情報処理や関連する技術を学ぶ。 ハード・ソフトウェアの種類と機能について学ぶ。 ビジネス情報の検索と活用方法について学ぶ。 電子メールの活用方法について学ぶ。 個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について学ぶ。
	2 学期	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法 4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 情報を分析して傾向を把握する方法について学ぶ。 目的に応じて適切な表を作成する方法について学ぶ。 特性を理解し、目的に合ったグラフ作成方法を学ぶ。 データを目的に応じて利用しやすい形で活用することを学ぶ。 事象をモデル化し、シミュレーションを行う基本的な技法やアルゴリズムについて学ぶ。 文書情報がビジネスの諸活動の中で果たす役割を学ぶ。 文書の構成要素の知識や作成の技術を学ぶ。 応用的な文書の作成に関する知識と技術について学ぶ。
	3 学期	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの意義と基礎的な技法を学ぶ。 資料作成から発表までの一連の活動について学ぶ。 各種ソフトウェアを適切に活用する知識と技術について学ぶ。

学習の評価

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方法	ワークシート ペーパーテスト（定期考査、小テスト）	ワークシート ペーパーテスト（定期考査、小テスト） パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	総合的な探究の時間	科目	キャリアプラン	単位数	1
----	-----------	----	---------	-----	---

教科書（出版社）	
----------	--

副教材（出版社）	
----------	--

授業の概要	教科横断的・探究的な学習をとおして、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断できる社会人としての心構えを養う。
-------	--

授業の目標	学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
-------	---

学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
1 学 期	1 ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を通じ、何を学ぶのかを理解する。 ・ワークシートをとおして、自己の考え方の癖や生き方について考えることができる。 ・人間関係について、多角的に考え、広い視点で考えることができる。 ・自分の考え方ことや感じたことを言葉にして表現できる。 ・現状を踏まえ、キャリアプランを立てることができる。
	2 自己理解ワーク（自分を知る）	
	3 自己理解ワーク（伝える聞く）	
	4 自己理解ワーク（まとめ）	
	5 キャリアプラン	
	6 1学期まとめ	
2 学 期	7 インターンシップ事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要なマナーの知識をもち、その上で、コミュニケーションの取り方について理解を深める。 ・就業体験をとおし、自己の進路について見つめ直し、今後の学校生活に役立てる。 ・外部講師の講演をとおして、働くことの意義や心構えについて理解し、就業意識を高める。 ・自己の体験について分かりやすく発表し、他者の発表を聞くことで、体験を共有する。 ・外部講師の講演から職場における人間関係について多方面から考えることで、視野を広げる。また、自分の考えをレポートにまとめる。 ・テーマに即した情報を収集・分析・まとめることができる。 ・プレゼンテーションの効果を高めるため情報機器を適切に利用できる。
	8 インターンシップ直前指導	
	9 インターンシップ本番実施	
	10 インターンシップ事後学習	
	11 外部講演	
	12 プレゼンテーション	
	13 キャリアプラン	
	14 2学期まとめ	
3 学 期	15 プレゼンテーション発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の体験を言語化し、他者に伝えることができる。 ・他者の意見を受け止め、必要に応じて質疑応答をして、尊重しながら自身の中に取り入れることができる。 ・自己の在り方生き方について学習をとおして理解し、進路選択に役立てることができる。
	16 プレゼンテーションまとめ	
	17 1年間の学習成果と将来プランの発表	
	18 1年間のまとめ	

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	社会人として必要なマナーの知識を持ち、適切なコミュニケーション方法を身に付けている。	キャリアプランについて見通しを持ち、問題解決を図りながら選択し、計画を立てる実践力を身に付けている。 新たなものの見方や考え方を受け入れ、自分の考えを適切な方法で伝えることができる。	自己のキャリアや社会人として必要な能力についての関心を高め、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。
評価 方 法	ワークシート 発表	ワークシート 発表	ワークシート 発表



教科	日本語	科目	日本語 I	単位数	2
教科書 (出版社)	みんなの日本語 初級Ⅱ(スリーエーネットワーク)				
副教材 (出版社)	増補改訂版 日本語総まとめ N4 (アスク出版)				
授業の概要	日本語を理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。				
授業の目標	(1) 学校生活の中で、日本語で日常会話ができる。 (2) 基本的な語彙や漢字を使って、身近な話題の文章を読むことができる。 (3) 日本語能力試験 N4 レベル程度の力を身に付ける。				

年	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学期	【26・27 課】 <普通形>んです。/ <普通形>んですか。/ 動詞の<可能>/Nが<可能>/～しか+否定/Nが見えます 等 【28・29 課】 V1ながら、Vています(習慣的行為) / どうして～か。…<普通形>し、それに～から。/NがVています(結果の状態) / Vてしまいました(完了) 等 【30・31 課】 <場所>に<物>が V てあります / <物>は<場所>に V てあります / 動詞の<意向形> / <V意向形>と思っています 等	○他者の状況について説明を聞いたり、自分の状況を説明したりすることができる。丁寧な言葉遣いで依頼ができる。助言や指示を求めることができる。 ○可能なことや不可能なことが言える。見える、聞こえるなどの状態が言える。 ○継続する動作が言える。日常の習慣的な行動が言える。二つ以上の理由を並べて述べることができる。 ○描写された状態が言える。完了したことが述べられる。残念に思う気持ちが表現できる。 ○将来のために前もって準備しておくことが述べられる。 ○自分の予定が説明できる。
	2 学期	【32・33 課】 V た/V ないほうがいいです / 動詞の<命令形> / 動詞の<禁止形> / <普通形>とっていました。 【34・35 課】 <V 辞書形/V た/N の>とおりに / 動詞の<条件形> V ば/V なければ / ナ形容詞/名詞の<条件形> ナ A/N なら 等 【36・37 課】 <V 辞書形/ナイ形>ように、～ / <V 辞書形>ようになりました / 動詞の<受身> 等	○助言や忠告等が言える。推量したことを確実さの程度によって表現できる。 ○指示や命令が理解できる。人の発言を伝えたりすることができる。 ○動作や作業の基準等が話せる。複数の動作の前後関係を言える。動作を説明することができる。 ○仮定条件を述べることができる。自分の判断を話したり、助言や指示を聞くことができる。 ○目標を述べることができる。他者の能力や物事の状況の変化を話すことができる。 ○受身表現を使い話す事ができる。
	3 学期	【38・39 課】 <V 辞書形>のは<形容詞>です / V て/V なくて、～ 等	○物事の感想、評価、好き嫌い、上手下手などが話せる。すべきことを忘れたということが言える。情報を知っているかどうか確かめられる。伝えたいことを強調して伝えられる。 ○感情等が話すことができる。丁寧に理由を話したり、弁解したり、事情を説明したりすることができる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	日本の生活に必要な日本語の知識や技能を身につけるとともに、適切に使うことができる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばすことができる。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。
評価 方 法	プリント 考査(定期考査・小テスト) 発表等	プリント 考査(定期考査・小テスト) 発表等	プリント 発表等

